

「令和7年度 練馬区一般廃棄物に関する調査」から見た主な課題

- 区は、令和8年度に第5次一般廃棄物処理基本計画の策定を予定している。
- 令和7年度に、区内で発生する資源・ごみの排出実態を把握し、資源・ごみの量、区民や事業者の意識・意向などに関するデータを計画策定の基礎資料とするため各種調査を実施した。
つぎのとおり、主な調査結果とそこから見た課題をまとめた。

1 調査結果

(1) 組成分析調査

ア 可燃ごみ

○可燃ごみの組成は、分別適正物（可燃物）が 79.5%、分別不適物が 20.5%
 ○分別不適物 20.5%のうち資源化可能物が 19.7%
 ○資源化可能物の内訳は、紙類が 11.3%、容器包装プラスチックが 4.9%、繊維類が 2.9%などの順
 ○生ごみが 33.8%含まれており、うち未利用食品が 4.7%
 ○令和5年度と比較して、分別適正物の割合が 2.3%減少

図1 可燃ごみの組成分析結果

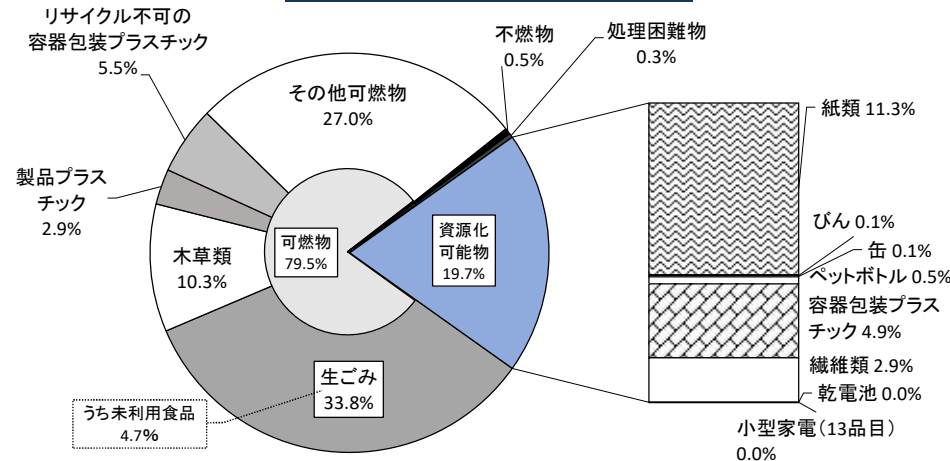
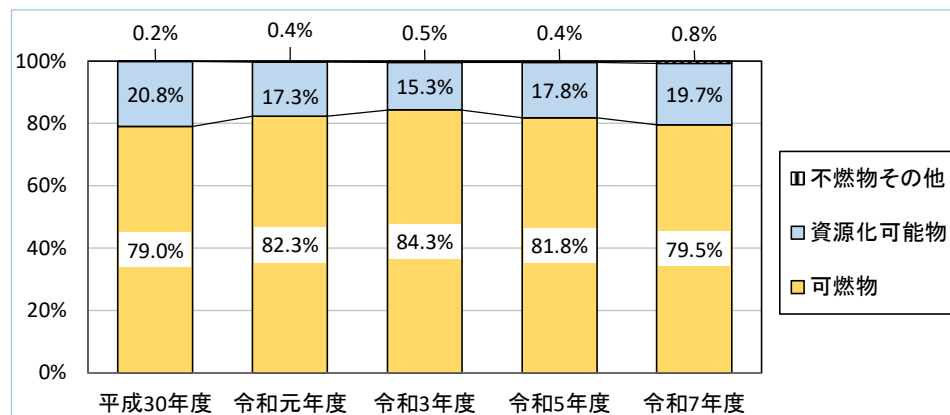


図2 可燃ごみの組成の推移



イ 不燃ごみ

○不燃ごみの組成は、分別適正物（不燃物）が 73.0%、分別不適物が 27.0%
 ○分別不適物 27.0%のうち資源化可能物が 11.4%
 ○資源化可能物の内訳は、びんが 5.0%、小型家電（13品目）が 1.9%、缶が 1.8%などの順
 ○令和5年度と比較して、分別適正物の割合が 10.4%減少

図3 不燃ごみの組成分析結果

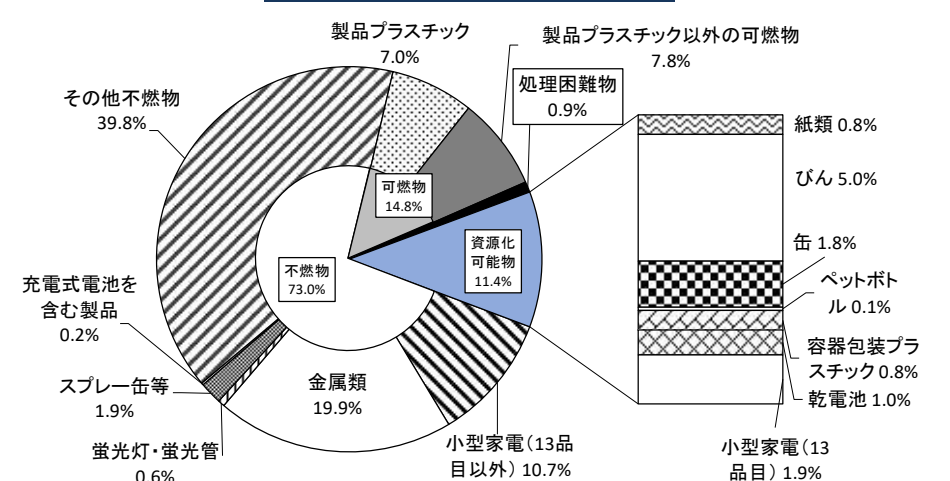
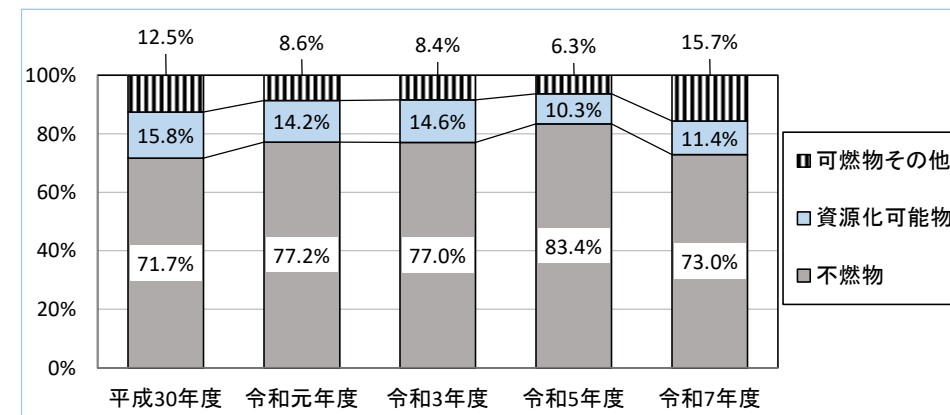


図4 不燃ごみの組成の推移



ウ 容器包装プラスチック

○容器包装プラスチックの組成は、分別適正物（容器包装プラスチック）が 76.9%、分別不適物が 23.1%
 ○分別不適物の内訳は、可燃物が 18.0%、容器包装プラスチック以外の資源化可能物が 4.6%などの順
 ○容器包装プラスチック以外の資源化可能物の内訳は、ペットボトルが 3.5%、紙類が 1.0%などの順
 ○令和5年度と比較して、分別適正物の割合が 1.2%改善

図5 容器包装プラスチックの組成分析結果

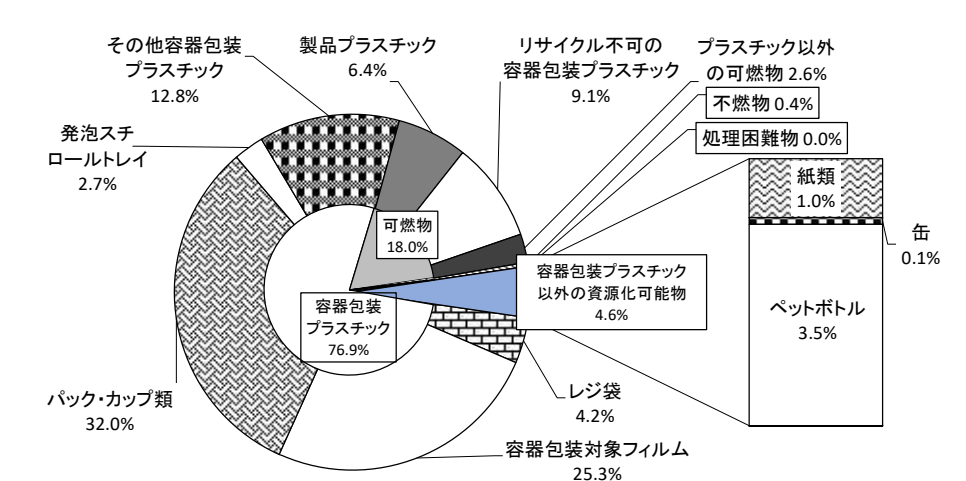
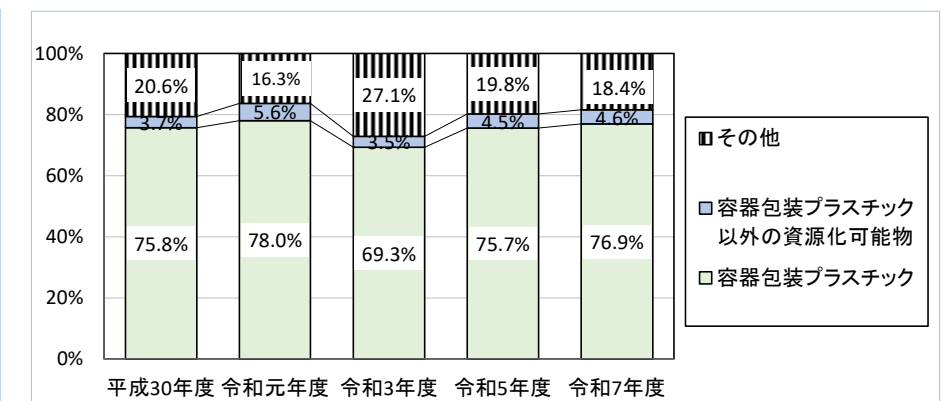


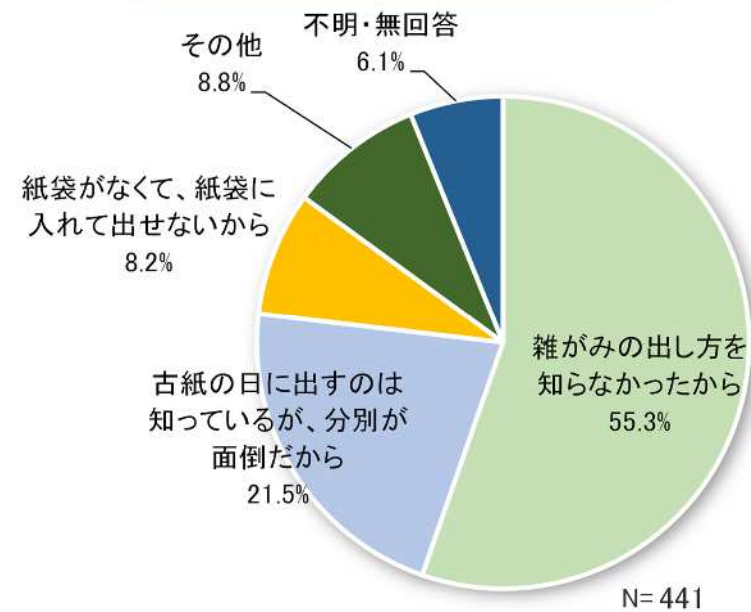
図6 容器包装プラスチックの組成の推移



(2) 区民アンケート調査

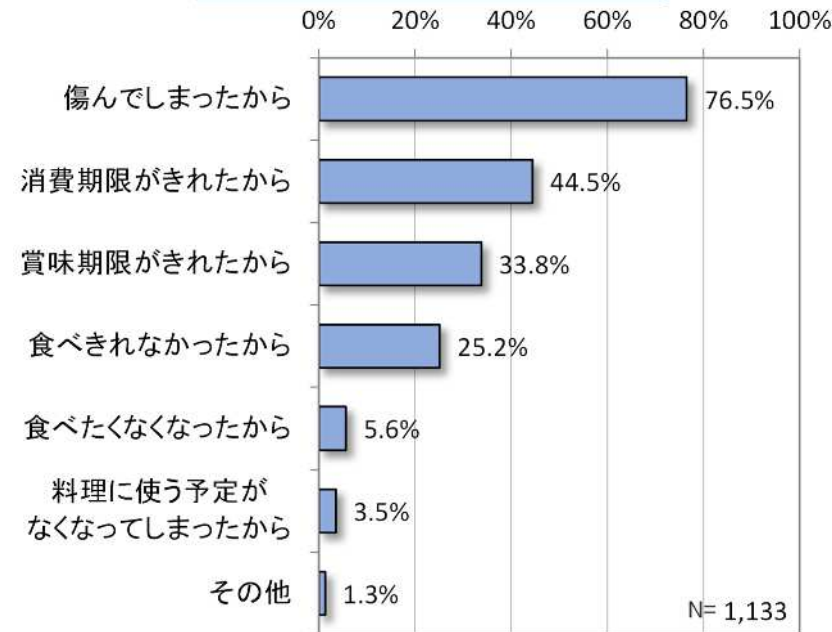
○雑がみを可燃ごみとして出す理由は、「雑がみの出し方を知らなかった」が55.3%と最も多い

図7 雑がみを可燃ごみとして出す理由



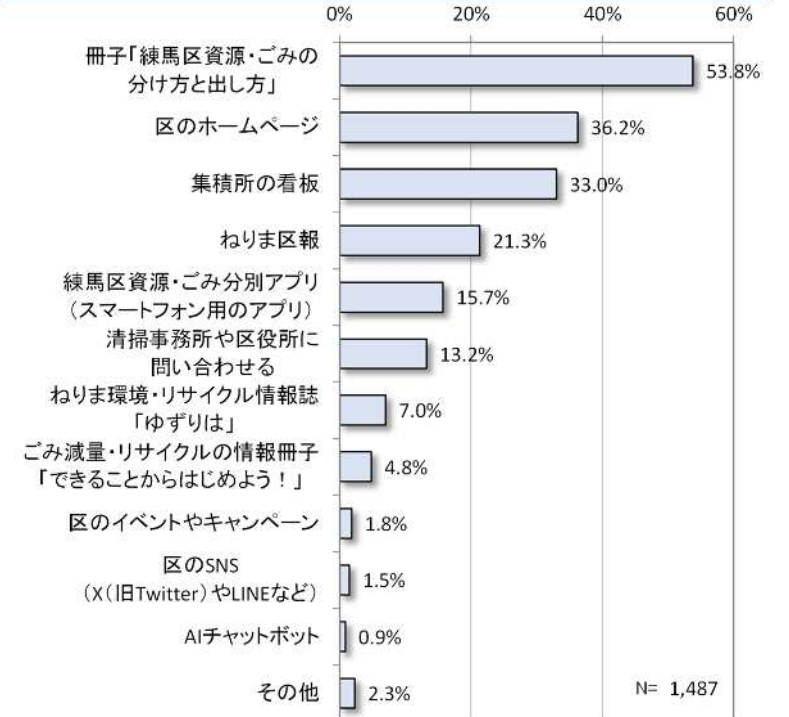
○まだ食べられる食品を捨てる理由は、「傷んでしまったから」が76.5%、「消費期限がきたから」が44.5%などの順だった

図9 食べられる食品を捨てる理由



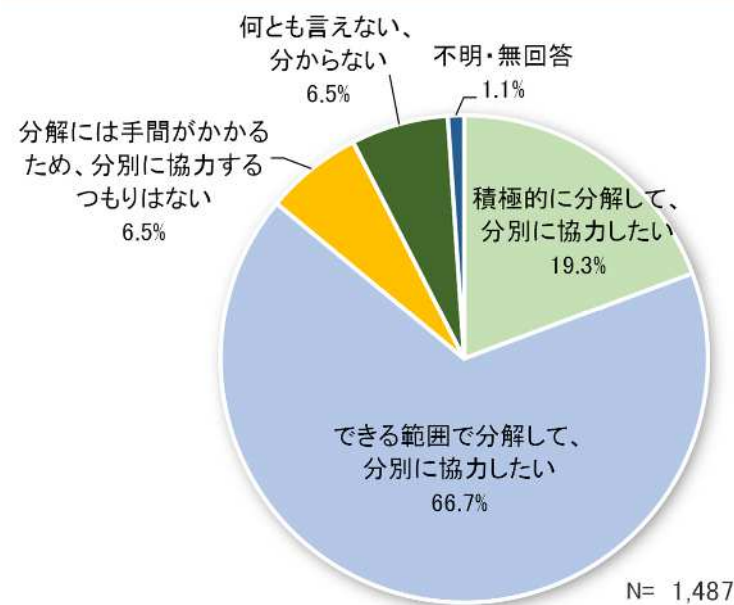
○情報源は、「練馬区資源・ごみの分け方と出し方」が最も多く53.8%、次いで「区のホームページ」が36.2%などの順だった

図11 資源・ごみの分け方・出し方や減量に関する情報源



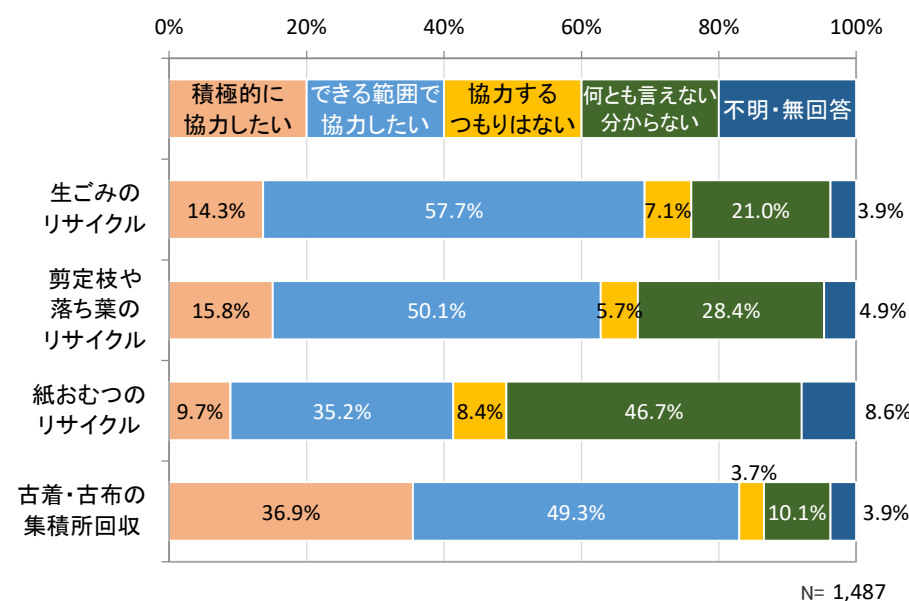
○本年10月から開始する製品プラスチックを含む「プラスチック」の分別回収に関しては、協力的な回答が合計で86.0%だった

図8 製品プラスチックの複合物の分別への協力について



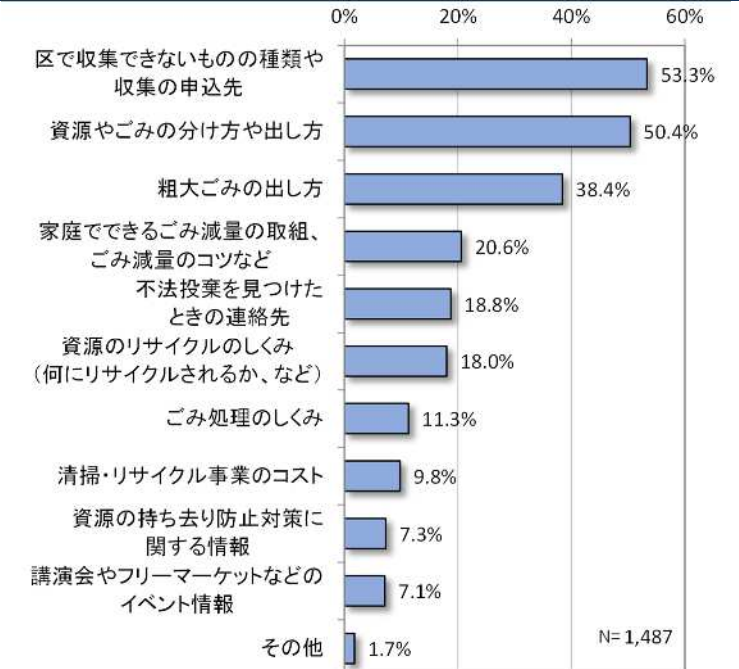
○生ごみ、剪定枝や落ち葉、紙おむつ、古着・古布の4品目について、新たに資源化する取組を行った場合、協力できるかどうかをたずねたところ、「古着・古布の集積所回収」は積極的な回答が86.2%だった

図10 新たな資源リサイクルの施策



○知りたい情報は、「区で収集できないものの種類や収集の申込先」が最も多く53.3%、次いで「資源やごみの分け方や出し方」が50.4%などの順だった

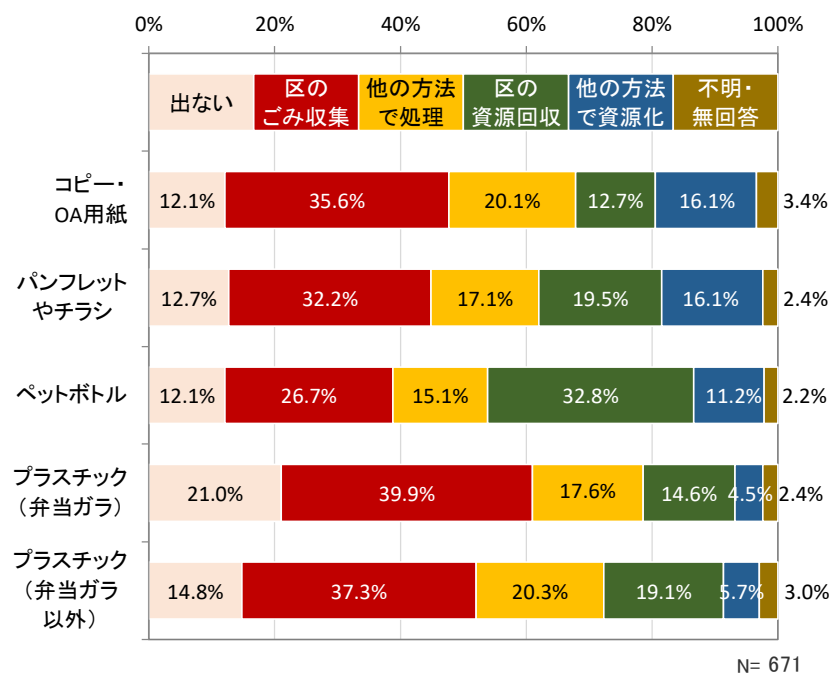
図12 区の清掃・リサイクルに関する情報で知りたいもの



(3) 事業所アンケート調査

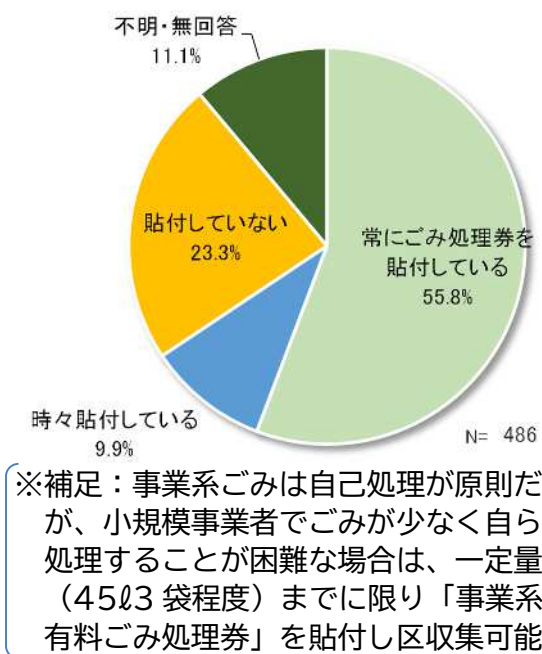
○品目別の処理方法について、コピー・OA用紙、パンフレットやチラシ、ペットボトルといった資源化可能物は、「区のごみ収集」に出すが3割前後であった

図 13 品目別の処理方法



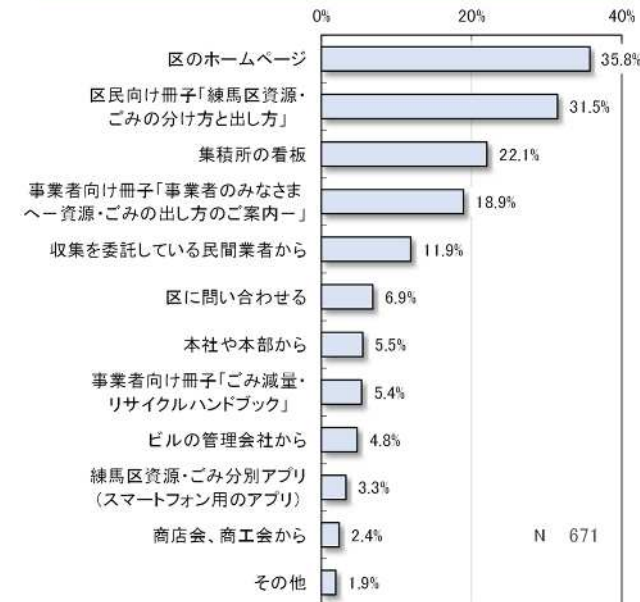
○区のごみ収集に事業系ごみを出す際、事業系有料ごみ処理券を「貼付していない」が23.3%だった

図 14 事業系有料ごみ処理券の貼付(ごみ)



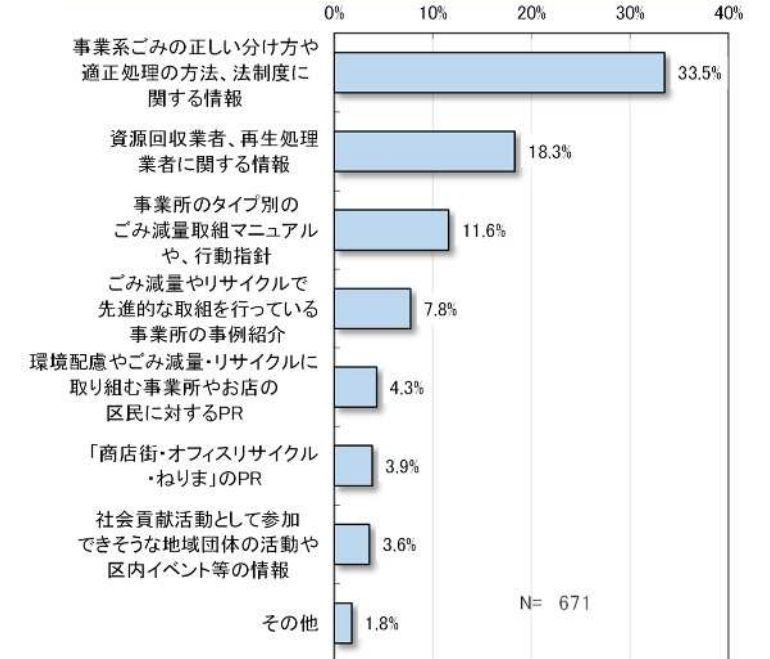
○ごみ処理やリサイクルに関する情報源は、「区のホームページ」が35.8%と最も多かった

図 15 ごみ処理やリサイクルに関する情報源



○今後区に進めてほしい情報提供やPR活動は、区民アンケート同様、「事業系ごみの正しい分け方や適正処理の方法等に関する情報」が33.5%と多かった

図 16 今後区に進めてほしい情報提供やPR活動



2 主な課題

【課題1】食品ロスの削減

可燃ごみの中で最も多いのは生ごみである。その中には未利用食品が含まれており、食品ロスが発生している。令和5年度からリサイクルセンター4か所に受付窓口を常設し、フードドライブ事業を実施するなどの取組をしてきたが、食品ロスの削減に向けてどのようなことができるか。

(これまでの取組)

- 令和5年度からリサイクルセンター4か所に受付窓口を常設し、フードドライブ事業を実施
- 生ごみの減量、水切り徹底について周知(「練馬区資源・ごみの分け方と出し方」、区公式YouTube等)

【課題2】分別の徹底

ごみの中には、分別すれば資源となるものがまだ多く含まれている。特に、可燃ごみは紙類、不燃ごみはびん、容器包装プラスチックはペットボトルが多く排出されている。これまで様々な方法で周知・啓発に取り組んできたが、更なる分別の徹底に向けてどのような方策が考えられるか。

(これまでの取組)

- 古着・古布の回収拠点を増
- 冊子「練馬区資源・ごみの分け方と出し方」を作成・配布(簡易版は日本語のほか8言語)
- 雑がみや汚れた容器包装プラスチックの出し方等について区公式YouTube、区ホームページで周知

【課題3】新たな品目の資源化

可燃ごみの中には、生ごみ、剪定枝や落ち葉、紙おむつ、古着・古布が多く含まれている。資源化ルートを確保することが課題となっている品目がある一方で、区が資源化を実施する場合、区民からは協力に前向きな回答が得られている。新たな品目の資源化を検討するに当たり、どのようなことが考えられるか。

(これまでの取組)

- 令和4年度から不燃ごみの資源化事業を実施
- 令和6年度から充電式電池の回収を実施
- 令和6年10月から粗大ごみに含まれるプラスチック製衣装ケースの資源化を本格実施
- 令和8年10月から製品プラスチック分別回収・資源化を実施

【課題4】事業系ごみの減量・適正処理

事業系ごみの中には、紙類やペットボトルなど資源化可能な品目が含まれており、減量の余地がある。

事業系有料ごみ処理券を貼付していない事業所が多く、ルール of 徹底が課題である。これまで事業者への指導を様々な方法で行ってきたが、どのような方策が考えられるか。

(これまでの取組)

- 延床面積1,000㎡以上の事業用大規模建築物に対する立入調査・指導を実施
- 有料ごみ処理券を未貼付で排出している事業者への指導
- 商店街オフィスリサイクル事業を継続